

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	飯田高等職業訓練校支援事業	会計	一般会計	事業No.	373	施策順No.	12-011
		事業種別	政策・その他	予算科目	5-1-1-10-1		
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり			課等名	産業振興支援課		
施策	12 人材育成と企業、人材誘導			事業期間	開始	終了	

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	技能修得を希望する若年者						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		学卒者、勤労者:人		1812			1800	
	意図	技能を修得する						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	飯田高等職業訓練校入学者:人	341	294	321	290	278	280	B
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		受講者が年々減少している状況ではあるが、受講者の多くは各種検定試験に合格したり技能五輪全国大会に出場するなど、高い技術を習得されており、地域の人材育成につながっている。						

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	働きながら技能を修得する勤労者のために職業訓練を実施する飯田高等職業訓練校の支援を行なう。入校生の技能、技術の向上が図られ、職業適応能力が高まるとともに産業振興の基盤となる人材育成が行われる。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	技能の継承や高い職業能力を持った人材を養成し、地域の産業振興に資する職業訓練を行う飯田高等職業訓練校に対する支援	卒業生	234人
23年度実施計画	技能の継承や高い職業能力を持った人材を養成し、地域の産業振興に資する職業訓練を行う飯田高等職業訓練校に対する支援	卒業生	人

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
	一般財源		2,546	2,546	2,546	
計(A)		2,546	2,546	2,546		
正規職員所要時間						
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			0			
トータルコスト A+B			2,546			

4 事業に対する市民や議会の意見

--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	地域内の従業員、地域内の企業、人材 ①事業活動を改善する ②企業立地、起業・就職できる	施策の成果指標又はムツ指標	①新規就業者数(新卒のみ) ③UIターン者数 飯田下伊那
この事務事業は施策の目的達成にどのよう に貢献しましたか	4年間の振り返り	受講者は、職業訓練を行うことにより、技能・技術を向上させ、中にはさらに検定試験や技能五輪全国大会に出場するなど、高い技術を習得され、地域の人材育成につながっている。		
	後期に向けた課題	検定試験の合格や技能五輪全国大会などの高いレベルの大会などに出場できるような、高い技能を持った技術者を大勢育成する。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	訓練校の訓練内容を充実させるため、県補助金である地域元気づくり支援金を平成21年度に受けて実施した。多くの方に受講してもらったため、訓練生募集案内パンフレットを市の施設の窓口においてもらっている。		
	後期に向けた課題	訓練生を増加させるため、カリキュラムの内容見直しなどが必要である。		
コストを削減するためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	地域の企業等が要求する技術力の高い人材を養成するためには事業費、人件費を削ることは困難。		
	後期に向けた課題	訓練生を増加させるため、カリキュラムの内容見直しなどが必要であり、合わせて事業費などの見直しを行う。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	訓練生は受講料を負担している 訓練生を雇用する事業所は訓練費用等の初期投資を抑えることができる。		
	後期に向けた課題			
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	① 働きながら技術を修得する勤労者 ② 飯田高等職業訓練校に補助金を支出し、訓練生の職業訓練の支援を行っている。		
	後期に向けた課題	検定試験の合格や技能五輪全国大会などの高いレベルの大会などに出場できるような、高い技能を持った技術者を大勢育成する。		
全体を通じて	4年間の振り返り	受講者は、職業訓練を行うことにより、技能・技術を向上させ、中にはさらに検定試験や技能五輪全国大会に出場するなど、高い技術を習得され、地域の人材育成につながっている。		
	後期に向けた課題	検定試験の合格や技能五輪全国大会などの高いレベルの大会などに出場できるような、高い技能を持った技術者を大勢育成する。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------